

2016
No.81

[2016年6月~7月号]

青山学院大学

〒150-8366

東京都渋谷区渋谷4-4-25

<http://www.aoyama.ac.jp/>

AGU NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS



特集

学長×卒業生対談

株式会社ニチレイフレッシュ代表取締役社長 金子 義史 氏

失敗を恐れずチャレンジ精神をもって 取り組んでほしい

2015年度 学生表彰 & 体育会優秀団体・選手表彰

Topics

カナダ・ヨーク大学と青山学院大学が大学間連携協定を結びました

AGU Lecture

脳科学研究室

理工学部 化学・生命科学科 平田研究室

失敗を恐れずチャレンジ精神を もって取り組んでほしい

海外勤務で得た「全体を見る」目 語学力よりまずは人間力

学長:金子さんは1983年に本学の経営学部を卒業されています。学生時代は、バブル景気が始まる少し前といった時期ですね。当時の忘れられない思い出はありますか。

金子氏(以下敬称略):当時は勉強してアルバイトしてという、ごく普通の学生生活を送っていました。ただ妻が英米文学科の同窓生なので、将来の伴侶に出会ったことが、結果としては大学における最大の思い出でしょうか(笑)。卒業後はものを作り出す仕事、食品関係の仕事に就きたくて、就職活動をしていました。

学長:卒業後、現在の株式会社ニチレイに入社されてから、ターニングポイントとなるような出来事はありましたか。

金子:入社4年目でアメリカのシアトルに転勤となった経験が、その後の仕事にも影響を与えると同時に、大きな財産となりました。現地では、TOEIC®900点を取っている人の英語でも相手に通じないことがあり、「語学力以前に、まず大事なのは人間力ではないか」と思うようになりました。「ありがとう」と言う場面で、日本語でも「ありがとう」が出てこない人が、「Thank you.」と言えるわけがありませんよね。それを実感できたのは収穫でした。また、海外に出たことで物事を俯瞰して見られるようになり、目の前の仕事に集中しつつも事業全体を見渡すという習慣につながりました。

学長:組織のリーダーにはそういう目線が大切ですね。アメリカでの経験を日本



株式会社ニチレイフレッシュ
代表取締役社長

金子 義史 氏 × 三木 義一

学長

卒業生Profile

1959年生まれ、東京都出身。1983年3月、青山学院大学経営学部経営学科卒業。同年4月、日本冷蔵株式会社入社(1985年に株式会社ニチレイと商号変更)。株式会社ニチレイ広域営業部マネージャー、株式会社ニチレイフーズ食品物流部長、常務執行役員 海外調達部・国際事業部管掌、取締役常務執行役員 海外調達部・国際事業部管掌などを歴任し、2015年6月に株式会社ニチレイフレッシュ代表取締役社長に就任。

での仕事に反映できたことが、今の金子さんをもたらしたのでしょうか。社長に就任後は、何か変化は生じましたか。

金子:私自身は変わらないのですが、私の発言を、周囲がこれまでより重く受け止めるようになったのではと感じます。

語学コンプレックスを カムフラージュにはいけない

学長:金子さんにとって、現代の日本社会はどのように見えていらっしゃるのでしょうか。

金子:今の日本は、協調性を重んじて個性を抑えたほうが、うまく世渡りできるような風潮があるように感じます。もう少し個性を表に出してもいいのではと思いますし、個性のある人材が求められる社会であってほしいものです。

学長:自分の考えや持っているものを出して提言しつつ、全体のバランスを考える。それができれば理想的ですね。

金子:また、日本の企業は固定観念が強く、従来のやり方を踏襲するケースが多いのですが、いかにクリエイティブな発想で仕事に取り組めるかが大切です。ですから若い人には、多少失敗はしてもどんどん挑戦する気概を持ってほしい

ですね。挑戦というのは、日頃から考えていないとできません。様々な場面から「こういう考え方があるのか」「ああいう方法もあるのか」と感じたり、違う価値観を学んだりする中で、挑戦する心が培われていくのです。

学長:挑戦する気持ちの足かせとなることの一つが、語学へのコンプレックスです。英語が苦手といった意識は日本人を

マイナス思考にしますね。

金子:おっしゃる通りです。例えば日本の経済について外国人に尋ねられると、「英語はできません」とすぐに逃げちゃう日本人もいます。ここでの問題は、本当に英語ができないのか、それともそもそも自分の考えを持っていないのか、という点です。日本語で答えられないものは、当然ながら英語でも答えられません。つまり、そういう人は自分の考えがないカムフラージュに、「英語ができない」というコンプレックスを利用しているのです。

学長:語学ができるに越したことはありませんが、たとえできなくとも発信できる中身や専門性をしっかり持っていれば恥じる必要はないでしょう。本学の学生にもそういう人間になってほしいと思っています。

金子:チャレンジする素地は学生時代にも培えますからね。

学長:努力すれば飛躍するチャンスがあるのに努力しない学生を見ると、もったいないと感じます。一生懸命取り組むという姿勢や自己規律を身に付けておけば、社会に出てからもそれが必ず役立つはずですよ。

金子:また、会社では刻々と変化する環境にどう対応するかという能力も求められるので、青学生にはそういった適応力も備えていてもらいたいですね。

学長:最後に、在学生へのメッセージを。
金子:「Enjoy your life!」。人生を楽しむためには、学生時代にすべきことをしっかりやってください。

学長:本日はありがとうございます。

2015年度 学生表彰

2015年度に学問分野において活躍した学生の受賞者が発表されました。

受賞者はいずれも多様な分野において優秀な結果を残したことが評価され、受賞につながりました。

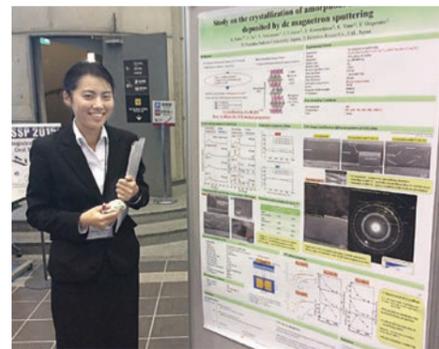
学生表彰は5名の学生と1団体が受賞。受賞者を代表し、2名の学生に受賞の感想や今後の抱負を聞きました。

化学が好きで学び続けた先に待っていた栄冠

● The 13th International Symposium on Sputtering & Plasma Processes Best Poster Award

須古 彩香さん 理工学研究科 理工学専攻 機能物質創成コース 博士前期課程 2年 重里有三研究室所属 北海道岩見沢東高等学校出身

私の今回の研究テーマでもあるIGZOという材料は広く研究が行われているので、発表でいかにオリジナリティを出すかというのが難しい点でした。そこで発表用ポスターには透過型電子顕微鏡で観察した写真をできるだけ多く使い、見やすいレイアウトを考えました。ポスターは青色を使用する人が多かったのに対し、私は緑色を基調にしたデザインにしたことで、少しは目立つことができたと思っています。たくさんの方々が発表を聞いてくださったことだけでも十分に満足していたので、Best Poster Awardの受賞は、すぐには実感が湧



きませんでしたが、今ではこの賞状をもっとたくさんの人に見てもらいたいと思うほど、誇りに思っています。重里有三教授、賈軍軍助教率いる先端無機薄膜研究室にて、私は、IGZO薄膜の結晶化を研究していました。研究室では学生それぞれが異なる材料のテーマを持ち、連携しながら実験を進めています。企業との共同研究も積極的に行っており、学生のうちから企業の研究者と関わることができ、良い経験をさせていただきました。大学院は高校や大学とは違い、今まで知られていないことについて自分の力で明らかにする点に面白さを感じました。多くの発表の機会をいただいたことも、自信につながりました。

きませんでしたが、今ではこの賞状をもっとたくさんの人に見てもらいたいと思うほど、誇りに思っています。

重里有三教授、賈軍軍助教率いる先端無機薄膜研究室にて、私は、IGZO薄膜の結晶化を研究していました。研究室では学生それぞれが異なる材料のテーマを持ち、連携しながら実験を進めています。企業との共同研究も積極的に行っており、学生のうちから企業の研究者と関わることができ、良い経験をさせていただきました。大学院は高校や大学とは違い、今まで知られていないことについて自分の力で明らかにする点に面白さを感じました。多くの発表の機会をいただいたことも、自信につながりました。

学生表彰の受賞も、驚きと共に非常に嬉しく思っています。重里先生の他、研究に携わってくださった多くの方々に感謝しています。受賞の盾を見ることで私自身の励みにし、今後は企業で科学者の一人として邁進していきたいと思ひます。



左から木津谷さん、須古さん

「多くの人に理解してもらおう」という目標を達成

● 2015 Asian Conference of Management Science & Applications (ACMSA2015) Best Paper Award

木津谷 剛志さん 理工学研究科 理工学専攻 マネジメントテクノロジーコース1年 熊谷敏研究室所属 神奈川県立西湘高等学校出身

ビルの消費電力の大部分を占めている空調の省エネは、現代社会における大きな課題となっています。「国際会議ACMSA 2015」で発表した論文では、利用者目線で空調利用の目標を立て、快適性を向上させる居室の空調管理方法を提案しました。専門知識がない人にも空調研究という専門的な研究内容を理解してもらえるよう、論文やプレゼンテーションを通じて、空調



研究がエネルギーマネジメントや最適化といった観点で他のことにも広く応用できる研究であるということアピールしました。日本語で理解してもら

のも苦勞する内容を、英語で理解してもらえるよう分かりやすく記述するのは大変でしたが、外国人留学生の力も借り、何度も論文をチェックしてもらいました。その結果、Best Paper Awardを受賞することができ、「多くの人に理解してもらおう」という目標を達成できたことをとても嬉しく思います。さらに大学からもこのような賞をいただき、大変光栄です。また、私の研究テーマである「空調の省エネ」という課題は、東日本大震災以降、その重要性が再認識されています。今回の受賞を通して、その重要性を少しでも社会にアピールすることができれば幸いです。

大学院では「快適性と省エネを向上させるための空調管理方法」というテーマで研究に取り組んでおり、ビル空調の省エネという視点から、環境問題にアプローチしています。今後はより一歩進んで「国際学会でもう一度受賞」を目標とし、さらに研究に取り組んでいきたいと思ひます。

カナダ・ヨーク大学と青山学院大学が大学間連携協定を結びました

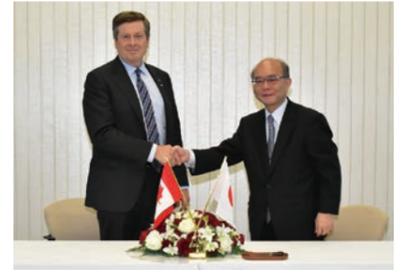
トロント市長ならびにトロント市企業関係者歓迎式 およびヨーク大学・青山学院大学一般協定書調印式

2016年4月15日(金)、新緑の美しい相模原キャンパスにおいて、カナダ・トロント市長ならびにトロント市企業関係者をお招きし、歓迎式およびヨーク大学・本学一般協定書調印式を行いました。

カナダ大使館と地球社会共生学部の連携で、相模原市とトロント市の友好都市25周年の記念行事の一環として、両市の協力を得て、協定調印、学生交換交流の実現に至りました。

ジョン・トーリー トロント市長をはじめ、トロント市議、トロント市企業関係者、本学からは三木義一学長、押村高副学長、さらに理工学部、社会情報学部、地球社会共生学部教員、事務職員等多数

の出席者が見守る中、和やかに式は執り行われました。三木学長の歓迎の挨拶の後、トーリー市長は、経済連携のみならず、教育における連携や学生交換交流の重要性について強調されました。ヨーク大学からは日本語学科の教授も参加されました。今後、ヨーク大学との学生交換交流の開始により、本学の国際交流が一層活発になることが期待されます。



池田 恵さん 香港杯 全日本大学学生大使英語プログラム 敢闘賞受賞

2016年1月16日(土)に開催された「香港杯 全日本大学学生大使英語プログラム2015-2016(香港特別行政区政府 駐東京経済貿易代表部主催)」で、文学部英米文学科2年の池田恵さんが「敢闘賞」を受賞しました。同プログラムは、日本で学ぶ大学生に、香港のダイナミズムと多様性を探ってもらうことを目的に開催されているものです。池田さんは学生の香港文化への関心を高める



左から2番目が池田さん

ための手段として「香港エキスポ」の開催を提案。その催しで香港の魅力を伝えるという企画を提案しました。発表内容が興味深いことや英語によるプレゼンテーションの分かりやすさなどが

評価され、受賞につながりました。

池田さんは「香港についてはほとんど知識がなかったのですが、高校の頃からスピーチコンテストには参加していたので、思い切って応募しました。選択テーマから『大学キャンパスで香港をプロモート』を選んだのは、青学生は国際意識が高い人が多く、香港のことをPRしたらきっと成功するだろうと考えたからです。発表の際は、審査員だけでなく会場にいる多くの人に聞いてもらいたいという思いから、ステージを少し歩きながら発表するなどの工夫をしました。この経験を生かし、他の大会にもぜひ挑戦したいです。また、今回香港で培った知識を、今後は日本でもっと発信していきたいと思ひます」と語りました。



清水 樹さん「特定課題演習」で書道作品展を開催

社会情報学部の「特定課題演習」として、2015年12月に相模原キャンパスで行われた清水樹さん(社会情報学部社会情報学科4年)の書道作品展「一歩～時間はかかっても～」が好評を博し、2016年3月7日(月)～28日(月)に、ユニコムプラザさがみはらでも展示されました。大学1年生の冬、交通事故で生死の境をさまよった清水さん。一命はとりとめましたが半身まひなどの障がいがあり、現在もリハビリを続けています。今回は、なかなか体の機能が回復しない中で抱いた思いを、書道で表現しました。



「特定課題演習で書道展をご提案くださった菊宿俊文先生、ゼミの高木光太郎先生に助言をいただくなど、様々な方の協力があり、学外での作品展が実現しました。会場では来てくださった方

の感想が聞けて、とても嬉しかったです。大学復学直後に書いた『一歩』には、リハビリを始めた当初は足が動かず物理的に一歩も進めなかったことや、新しいことに挑戦するという意味が含まれています。僕にとっては大切な、意味のある言葉です。

2015年に陸上競技部(長距離ブロック)が箱根駅伝で初優勝したときは、チームが力を合わせて勝利する光景に気持ちが高ぶり、それまで難しく書けなかった『当たり前 それが意外と有り難い』を、ついに書くことができたそうです。

「復学後から言語リハビリも兼ねて、発音が難しいと言われる中国語を勉強しています。今後の目標は、まず歩けるようになること。そして、事故に遭って実感した『“当たり前”のありがたさ』を、書道を通じて一人でも多くの方に発信していきたいです」と語りました。



2015年度 体育会優秀団体・選手表彰

体育会優秀団体・選手表彰では、2015年度にスポーツ分野において活躍または業績をあげた学生、団体が表彰されました。受賞者を代表し、2つの団体に受賞の感想や今後の抱負を聞きました。

チームワークでつかんだ本学初、年間総合優勝の快挙

優秀団体 自動車部

- 全日本学生自動車連盟年間総合杯 男子団体の部 優勝、女子団体の部 準優勝
- 全日本学生自動車連盟関東支部年間総合杯 男子団体の部 準優勝、女子団体の部 優勝
その他多数受賞

池本 康之助さん | 社会情報学部 社会情報学科3年
静岡・私立常葉学園菊川高等学校出身

2015年度は「全日本学生運動競技選手権大会(全日本フィギュア)」、「全日本学生ジムカーナ*1選手権大会」、「全日本学生ダートトライアル*2選手権大会」の成績により、本学自動車部初の「全日本学生自動車連盟年間総合杯」を獲得することができました。



た。さらに大学からも優秀団体として表彰され、大変光栄に思います。

好成績を残せたのは、車両トラブルがあったときでも車両のコンディションに妥協しなかったこと、その結果、上級生の実力が十分に発揮され、チーム一丸となって戦えたからだと思えます。ダートトライアルの2週間後に行われたジムカーナは時間との戦いで、ダートトライアルの車両からジムカー

ナ車両へエンジンをスワップさせる整備を徹夜で行うなど、様々な苦勞を乗り越えての優勝でした。

現在は男子16名、女子3名の19名で活動しています。普段の活動は水曜日と土曜日を中心に、ガレージでは試合に使用する車両の整備作業、サーキットや大学の施設では競技に向けての練習を行っています。自動車の整備面や運転技術に詳しくなるだけでなく、モータースポーツを通じてチームワークを磨ける点が、自動車部の面白さだと思います。

現在は男子16名、女子3名の19名で活動しています。普段の活動は水曜日と土曜日を中心に、ガレージでは試合に使用する車両の整備作業、サーキットや大学の施設では競技に向けての練習を行っています。自動車の整備面や運転技術に詳しくなるだけでなく、モータースポーツを通じてチームワークを磨ける点が、自動車部の面白さだと思います。

2016年度の目標は「全日本学生自動車連盟年間総合杯」総合優勝、「全日本学生自動車連盟関東支部年間総合杯」総合優勝です。最上級生の運転技術のレベルを考えれば十分に狙えると考えています。ただ、モータースポーツはチームスポーツですから、各団員が責任感を持ち、主体的に考えて行動する必要があります。また、後輩の育成・指導も積極的にいき、全体の實力アップを図っていきたくと考えています。今後さらに良い成績を残せるよう、チーム一丸となって努力していきます。

*1 ジムカーナ………パイロン(駐車場や工事現場にある三角すいの圓物)で仕切られたコースを、最も早く正確にゴールすることを競う形式。
*2 ダートトライアル………未舗装の路面に設定されたコースを走り、そのタイムを競う形式。

上位を狙えるチームになった今、次に目指すは全国制覇

敢闘団体 航空部

- 第31回関東学生グライダー競技会 団体第2位・第6位
- 第55回全日本グライダー競技選手権大会 団体第6位・第9位

加藤 大貴さん | 理工学部 機械創造工学科3年
神奈川・私立日本大学藤沢高等学校出身

2015年度、「関東学生グライダー競技会」と「全日本グライダー競技選手権大会」で優秀な成績を収めることができました。このような形で評価していただき、非常に嬉しく思っています。

グライダー競技は、操縦技術だけでなく、天候などの自然条件への適応能力が問われるスポーツです。関東大会は難しい自然条件の中、三好航太(理工学部機械創造工学科4年)が高得点を獲得。一方の全国大会では、チーム全体として総力戦で好成績を残すことができました。関東と全国の異なる条件で勝ったことは、航空部として大きな成長だと感じている。



2015年度、「関東学生グライダー競技会」と「全日本グライダー競技選手権大会」で優秀な成績を収めることができました。このような形で評価していただき、非常に嬉しく思っています。

ます。航空部では「自ら操縦して空を飛ぶ」という、日常生活では味わえない体験ができます。約550kgもの重量の機体を数千mの高さまで持ち上げてしまう自然の力には驚き、気流を使って上昇したり、目的地に着陸したりするのは、航空部ならではの面白さです。ただ、グライダー競技はスポーツであると共に、乗り物であるため常に安全を意識し、航空法や各飛行場のルールを厳守しなければなりません。その中で勝利を目指して取り組んでいく点は難しいところです。

普段は月1~2回程度、週末に年18回、合宿で年約70日、埼玉県熊谷市にある滑空場に行き、訓練としてのフライトを行っています。また、毎週水曜日にミーティングをしている他、年に数回相模原キャンパスで機体整備を行っています。

近年、航空部は成績を上げていて、大会でも上位を狙えるようになってきています。今後は安全第一を最優先する中で、学生グライダー界のトップを目指します。

近年、航空部は成績を上げていて、大会でも上位を狙えるようになってきています。今後は安全第一を最優先する中で、学生グライダー界のトップを目指します。



SC相模原と社会情報学部が共催イベントを開催

好天に恵まれた去る2016年2月27日(土)、「スポーツで相模原を元気に!」を掲げたイベントを、サッカーJリーグ3部(J3)のSC相模原(スポーツクラブ相模原)と本学社会情報学部との共催により相模原キャンパスで開催しました。このイベントは、社会情報学部が主管となり2015年度から開始している、地域に貢献するアスリートの人材育成を目的とした「スポーツキャリアプログラム」の関連事業として実施したものです。

当日は、SC相模原に加入した元日本代表ゴールキーパーの川口能活選手をはじめとしたSC相模原の全選手のお披露目の他、選手と地域の子どもたちがボールを使って一緒にリフティングやシュートゲームなどをしたり、新シーズンに向けてSC相模原が決意表明を行ったりしました。川口能活選手、元日本代表で、SC相模原創設者の望月重良代表、相模原市教育委員会スポーツ課 菊地原史課長、さらには箱根駅伝2連覇を達成した本学陸上競技部(長距離ブロック)の原晋監督を交えた4名による「地域におけるスポーツの役割の重要性」についてのトークセッションが行われ

ました。川口選手が所属した英国のサッカークラブでの経験や、原監督の箱根駅伝に対する地元からの応援のエピソードなどの興味深い話に、カフェテリア



2階の特設会場を埋めた約400名の参加者は最後まで熱心に聞き入っていました。開会に先立ち挨拶に立った稲積宏誠社会情報学部長がその趣旨で述べたように、本学相模原キャンパスが地域と共に発展していく端緒として、今後の取り組みを大いに期待させるイベントとなりました。

川口 能活(かわぐち よしかつ)選手
1975年8月15日生(40歳)。元サッカー日本代表GKとしてW杯に4回選出。その熱いプレースタイルから「炎の守護神」と呼ばれる。特にアトランタ五輪で強豪ブラジル相手に1対0で勝利した「マイアミの奇跡」でゴールを死守したことは記憶に鮮烈。

(社会情報学研究科特任教授 佐藤 敏彦 記)

バスケットボール部(男子) 韓国・明知大学との国際親善試合開催報告

2016年3月14日(月)から22日(火)までの9日間にわたり、本学と同じキリスト教大学である韓国・明知大学を招き、バスケットボール国際親善試合を開催しました。

15日(火)から18日(金)までは本学相模原キャンパスA棟アリーナにて連日練習および試合を行い、強いフィジカルを武器とする韓国チームを相手に、日々のトレーニングの成果で対抗した本学は4戦全勝を収めることが



できました。20日(日)・21日(月・祝)は場所を神奈川大学湘南ひらつかキャンパスへ移し、全国から総勢19校が集う「SPRING CAMP2016」に両校揃って参加しました。本大会への参加によりさまざまなタイプのチームと対戦することができ、双方にとって貴重な経験になったものと思います。

バスケットボールでの対戦のみならず、学生食堂にて昼食・夕食を共にしたり、キャンパス内を案内するなど言葉の壁を超えた異文化交流も行うことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。このような貴重な交流を今後も続けていくことができるよう願っております。

(主務:文学部 フランス文学科2年 鈴木 まゆ 記)

東京マラソンで健闘した下田選手と一色選手が学長から表彰

2016年2月28日(日)に開催された「東京マラソン2016」に陸上競技部(長距離ブロック)から出場し、健闘した4名の選手のうち、日本人選手第2位の下田裕太選手(教育人間科学部教育学科2年)と第3位の一色恭志選手(経営学部経営学科3年)が、3月24日(木)学長室にて、三木義一学長より表彰されました。

「駅伝ランナーは、マラソン界でも活躍できることを証明してくれました。スポーツ界に刺激を与えた快挙であり、誇りに思います」と三木学長より、表彰状と記念品が授与されました。

下田選手は、「30kmまでは箱根駅伝より良いペースでスムーズに走れましたが、40km手前では練習時よりペースがダウンし、マラソンの厳しさを味わいました。今回フルマラソンは初挑戦で

したが、結果を残すことができたので、今後の陸上界の発展につながればと思います」と語りました。

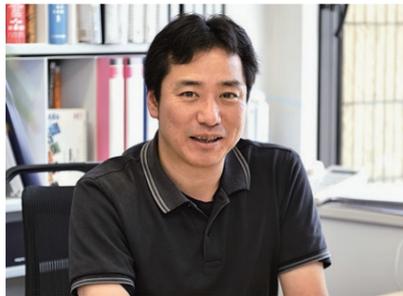
一色選手は、「35km以降、かなり辛く感じました。ベテランのマラソンランナーでもレースは簡単ではないことを実感しました。今後も目標に向かって挑戦していきたいです」と抱負を述べました。

最後に、三木学長より、「今後も気を引き締めて、活躍してください」とエールが送られました。





AGU Lecture 080



脳科学研究室

平田 普三
理工学部 化学・生命科学科教授

動く生き物を動物、動かない生き物を植物と定義したのは古代ギリシアの哲学者アリストテレスです。その時代から2,000年以上にわたり、動物の動きは子どもから大人まで多くの人を魅了してきました。私も子どもの頃から生き物が好きで、虫を捕まえては動くのを見ていました。昆虫少年の興味は尽きることなく、むしろ高じて、今はゼブラフィッシュという熱帯魚を飼育して、動物がどのように運動能力を獲得し、また状況に応じて変化させるのかを分子レベルで解明する生命科学の研究をしています。神経と筋肉で作出す運動の原理は魚からヒトまで脊椎動物で同じなので、魚の研究からヒトにも共通する運動制御や適応の機構が分かり、脊髄性筋萎縮症やてんかんなど運動障害を伴うヒト疾患の解明にもつながりました。

皆さんは何を学ぶために大学に来ているのでしょうか。教科書にはすべてが分かっているかのように書かれていますが、何が分かっているのかはほとんど書かれていません。大学で学ぶべきことは教科書を読めば習得できる専門的な知識ではありません。これまでそれを知らなかったし、考えようともしなかった自分の無知を認識することから学びは始まります。知ると感動は「もっと知りたい」という

欲望を生み、「何を知りたいのか」が見えてくると「何が分からないのか」を考えられるようになります。学問や研究の本質は問題を解くことよりも問題を設定することにあり、適切に問題を設定できれば、その解き方はおのずと見えてきます。学問を楽しむ人・研究に向いている人は必ずしも試験の成績の良い人・クイズ回答の速い人ではないのです。

では、どうやって問題設定のスキルを高めるのでしょうか。私は日々の研究、論文読解から雑談まで、あらゆる話題で「何がクエスチョンで何がアンサーですか」と質問します。学生の多くはこの質問に戸惑い、関連するキーワードを並べるだけの場当たりの回答をしますが、これを繰り返すうちに、対立軸を提示して論点を明確にし、問題を設定できるようになります。この「クエスチョン・アンサー」こそが大学で学ぶべき論理的思考であり、実社会のあらゆる仕事に通用する問題解決能力そのものであると私は考えています。私の研究室では魚の研究を通して、躍動感溢れる動物の美しさにふれつつ「クエスチョン・アンサー」を習得し、さらに講義では学べない主体性、創造性、協調性を身に付け、自分を成長させてほしいと思っています。



平田研究室学生
高坂 拓弥さん
理工学部
化学・生命科学科4年
神奈川県立海老名高等学校出身

平田先生の研究室に進んだのは、卒業論文に参加させてもらったのがきっかけでした。先輩方がこれまでやってきた研究について、自信を持って堂々と、しかも楽しそうに発表している姿を見て、「自分も1年後、こんな風になりたい」と思ったのです。これまでの自分に欠けていた問題解決能力や、自分の考えを人にしっかり伝えるという力を平田先生の研究室で身に付け、人として成長したいと思いました。

今は、実験の基礎や機械の使い方などを学んでいるところです。最初は「研究室は堅苦しいところ」という固定観念を抱いていたのですが、実際は全くそんなことはなく、平田先生はささいなことでも丁寧に教えてくださいました。先輩方は優しく接して下さり、親睦会や歓迎会、昼食の時間なども通して、日に日に団結力も強まっていると感じます。

これから研究室を選ぶ人には、ぜひ中間発表や卒業論文への参加をおすすめします。先輩の姿を見て「1年後はこういうことをしているのか」という意識も生まれますし、研究の内容も参考になるはずです。

卒業後は大学院に進学する予定ですが、その前に卒業発表で、この1年で学んだ成果をしっかりと示したいと思っています。

Information

2016年度 大学執行部、学部長・研究科長紹介



学長
三木 義一
■専門分野：税法
■任 期：2015年12月～2019年12月



経営学部長・経営学研究科長
三村 優美子
■専門分野：マーケティング、流通
■任 期：2016年4月～2018年3月



副学長
篠原 進
■専門分野：近世文学、浮世草子研究
■任 期：2015年12月～2017年12月



国際政治経済学部長・国際政治経済学研究科長
内田 達也
■専門分野：応用ミクロ経済学
■任 期：2016年4月～2018年3月



副学長
田中 正郎
■専門分野：流通マーケティング
■任 期：2015年12月～2017年12月



総合文化政策学部長・総合文化政策学研究科長
堀内 正博
■専門分野：マネジメント論
■任 期：2016年4月～2018年3月



副学長
押村 高
■専門分野：政治学、国際関係論
■任 期：2015年12月～2017年12月



理工学部長・理工学研究科長
橋本 修
■専門分野：生体・環境電磁工学
■任 期：2016年4月～2018年3月



文学部長・文学研究科長
阪本 浩
■専門分野：古代ローマ史
■任 期：2016年4月～2018年3月



社会情報学部長・社会情報学研究科長
稲積 宏誠
■専門分野：情報理論、人工知能、機械学習
■任 期：2016年4月～2018年3月



教育人間科学部長・教育人間科学研究科長
鈴木 眞理
■専門分野：社会教育学、生涯学習論
■任 期：2015年4月～2017年3月



地球社会共生学部長
平澤 典男
■専門分野：公共経済学
■任 期：2015年4月～2017年3月



経済学部長・経済学研究科長
中村 まづる
■専門分野：経済政策
■任 期：2016年4月～2018年3月



国際マネジメント研究科長
岩井 千明
■専門分野：ビジネスゲーミングシミュレーション、データベースマーケティング
■任 期：2015年4月～2017年3月



法学部長・法学研究科長
大石 泰彦
■専門分野：メディア法、メディア倫理
■任 期：2016年4月～2018年3月



法務研究科長
後藤 昭
■専門分野：刑事法学
■任 期：2016年4月～2018年3月



会計プロフェッション研究科長
小西 範幸
■専門分野：財務会計論、国際財務報告論、国際統合報告論
■任 期：2016年6月～2017年3月

2016年度 保証人の方対象説明会について

キャンパス見学会

新入生の保証人の方を対象としてキャンパス見学会を実施します。
青山キャンパス…6月18日(土)午後(相模原キャンパスは5月28日(土)に実施しました)

学業説明会・就職説明会

首都圏にお住まいの保証人の方を対象に5~6月の土曜日に実施します。

ペアレンツウィークエンド(地方父母懇談会)

首都圏以外にお住まいの保証人の方を対象として、大学教職員が全国の拠点都市に伺って大学の近況をお伝えします。開催日程は表の通りです。

地区	開催日	開催場所	地区	開催日	開催場所
仙台	6月12日(日)午後	ホテルメトロポリタン仙台	広島	7月10日(日)午前	ホテルグランヴィア広島
松本	6月18日(土)午前	松本東急REIホテル	岡山	7月17日(日)午前	ホテルグランヴィア岡山
新潟	6月19日(日)午後	新潟ブランドホテル	名古屋	7月18日(月・祝)午後	キャッスルプラザ
浜松	6月19日(日)午後	オークラクトシティ浜松	金沢	7月23日(土)午前	ANAクラウンプラザホテル金沢
大分	6月25日(土)午前	大分オアシスタワー	鹿児島	7月23日(土)午前	城山観光ホテル
高知	6月26日(日)午前	高知パレスホテル	松江	7月24日(日)午前	ホテル一畑
大阪	7月3日(日)午前	ホテルグランヴィア大阪	札幌	7月30日(土)午前	ニューオータニイン札幌
福岡	7月3日(日)午前	ホテルニューオータニ博多	山形	7月31日(日)午前	ホテルメトロポリタン山形
郡山	7月10日(日)午後	郡山ビューホテルアネックス	水戸	7月31日(日)午後	三の丸ホテル



対象の方に5月上旬に郵送した専用のハガキまたは本学ウェブサイトにてお申し込みください。問い合わせ先 庶務部庶務課 TEL: 03-3409-8568
実施詳細の最新情報は本学ウェブサイトでご確認ください。

2015年度 学位授与式(卒業式)

2016年3月26日(土)、青山学院記念館において学部の学位授与式が挙行され、約4,000名が門出を迎えました。梅津順一院長の式辞、三木義一学長の告辞に引き続き、相川和宏校友会会長から祝辞を賜りました。壇上では各学部の総代に学位が授与され、答辞が朗読されました。

大学院の学位授与式は青山学院講堂にて行われ、各研究科の総代と博士に学位が授与され、答辞が朗読されました。

同日ガウチャー記念礼拝堂では午前と午後それぞれ伊藤悟大学宗教部長と、塩谷直也大学宗教主任による卒業礼拝も行われました。



2016年度 入学式

2016年4月1日(金)青山学院記念館において、学部・大学院合同の入学式が午前、午後の2回に分けて挙行されました。学生団体による合唱『ハレルヤ』の後、梅津順一院長の式辞、三木義一学長の告辞、後援会会長の岩間建二郎様からは祝辞を賜りました。式典終了後はアナウンス研究会の司会進行のもと、応援団と吹奏楽バトントワリング部の協力でカレッジソングの歌唱指導も行われ、プログラムは終了しました。



大学学費後期納付のご案内

学部

※大学院の学費納付は大学院要覧参照

【納付期限】2016年9月30日(金)

2015年度以前入学者…4月中旬に発送した学費振込依頼書の後期分をご利用ください。
2016年度入学者…7月5日(火)に後期分の学費振込依頼書を送付予定です(後期分学費未納付者)。

青山学院大学教育振興資金

保証人の皆さまのご支援を学習環境および生活環境の改善につなげます。

日頃より本学の教育研究活動に関してご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2015年5月と11月に募集いたしました「青山学院大学教育振興資金」に対して過分なるご寄付をいただきまして誠にありがとうございます。これもひとえに同振興資金募集の趣旨をご理解いただいた上でのご支援だと身にあまる光栄に存じます。今号では2015年9月11日以降にご寄付いただきました皆

さま方を掲載の対象としております。

2015年度は「図書館什器のリニューアル」、「進路就職支援システムWeb Ashのリニューアル」、「IELTS試験の対策講座助成」のために本資金を活用させていただきました。この場をお借りして御礼申し上げますとともに、ご寄付くださった皆さま方のご芳名を本誌に掲載させていただきます。

ご芳名掲載対象者 299名

ご芳名掲載者 71名

匿名者 228名

ご芳名掲載対象期間 2015年9月11日から2016年3月31日までのご寄付者 (五十音順)

あ	浅原 慶徳 様	小澤 源太郎 様	し	清水 敬一郎 様	な	長嶋 義和 様	松永 永恵 様		
	朝山 匡一郎 様	か	金井 りか 様	下間 和拓 様		中田 宏 様	松本 賢芳 様		
	天野 邦彦 様		金村 剛 様	宿谷 肇 様		中野 智 様	も	本橋 良 様	
い	伊東 正子 様		亀山 誠 様	す	末政 義彦 様		中村 俊光 様	森島 雅弘 様	
	岩崎 賢治 様		川崎 厳久 様		菅野 実 様		七蔵司 修 様	森永 悟 様	
	岩澤 芳光 様	き	北沢 行男 様		杉浦 啓司 様	に	西田 登 様	や	安井 宏 様
	岩間 建二郎 様		城戸崎 雅美 様		鈴木 浩一 様		西田 安伸 様		安田 一雄 様
う	上野 伸五 様		業天 浩二 様	た	高橋 慎一 様	の	野口 健一 様		安本 義治 様
	上野 泰之 様	<	久保尾 俊郎 様		高橋 保博 様	は	長谷 章 様	よ	吉岡 美嗣 様
	宇賀神 久弥 様	こ	小山 登志雄 様		竹内 由賀子 様		長谷川 国夫 様	わ	若林 順一 様
え	江口 政治 様		小山 秀明 様		田島 祐子 様		浜田 孝 様		和佐田 佳之 様
お	岡 宏明 様		近藤 秀司 様		谷口 旭 様		浜田 高宏 様		
	岡部 孝継 様	さ	佐々木 英治 様	ち	千葉 尚路 様	ふ	福田 澄幸 様		
	小川 健太郎 様		佐藤 剛 様	つ	椿 隆二郎 様		藤原 猛史 様		
	沖永 忠通 様		澤崎 泰弘 様	と	富永 祐史 様	ま	増田 虎彦 様		

※ご芳名掲載の意思表示は「教育振興資金ご寄付のお願い」に同封の振込用紙にて依頼しております。希望されない方、意思表示のない方、また、銀行のATM、インターネットバンキングをご利用でご寄付され、意思確認ができない方につきましては、匿名で掲載させていただきます(今回匿名掲載された方で、ご芳名掲載を希望される場合は、政策・企画部までお知らせください。次回掲載させていただきます)。

問い合わせ先 政策・企画部 E-mail: p-office@aoyamagakuin.jp TEL: 03-3409-9612

AGUくまもと応援募金活動

熊本県および大分県において発生した平成28年熊本地震への支援活動の一環として、「AGUくまもと応援募金」を実施しました。ボランティア・ステーションや体育会学生本部の学生による運営のもと、募金の呼び掛けに参加した学生は延べ633名、集まった支援金は1,114,333円にも上りました(4月20日~29日集計分)。皆さまからの多大なるご支援に感謝するとともに、本学では今後も被災地への支援を継続していきたいと考えています。





青山学院EVERGREEN150募金

青山学院スカラーシップ ～次代のサーバント・リーダーのために～



青山学院では、学生の皆さんが経済的理由から学業を断念することなく充実した大学生活を送ることができるよう、給付型奨学金の充実に努めています。2015年度は63の冠奨学金を設け306名の学部生・大学院生に給付することができました。本年度はさらに多くの校友・保証人・教職員・篤志家の皆さまからのご寄付により、約400名の学生に給付できる予定です。奨学金を受給した学生の声を一部ご紹介します。本奨学金の意義を一人でも多くの方がご理解くだされば幸いです。

青山学院大学の学生支援は、学生のやる気と学ぶ気持ちを奮わせる大変素晴らしいものだと思っています。
(教育人間科学部3年)

私の家は母子家庭で、母が主に生計をたてているため、給付型奨学金のおかげで経済面での負担や精神面での負担が減り、大変感謝しております。
(法学部2年)

薬にもすがる思いで奨学金に応募しました。学費以外に通学定期、学会への参加などにお金がかかりますが、その心配をすることなく研究活動に専念することができるようになりました。
(理工学研究科博士前期課程1年)

この奨学金が、青山学院に関わる様々な人が寄付をして成り立っていることを初めて知りました。青山学院大学で学ぶことができているのは、そのような方々の支えがあるからだということを決して心に留め、私が社会へ出た後は与えていただいたもの以上の貢献ができるよう勉学に励みたいと思います。
(国際政治経済学部2年)

私が何よりも感謝したいのは給付型の奨学金ということです。日本ではとても珍しいことです。私はこの奨学金によって学びの自由や学生生活の充実が得られました。
(社会情報学部1年)

奨学金によって週4日・月100時間のアルバイト時間を、週3日に減らし、勉学にあてることができました。さらに努力し来年に備えたいです。
(経営学部3年)

私自身、「人にしてもらいたいことは何でも、あなたも人にしなさい」という聖書の言葉を大切に、寄付者の方のご期待に応えられるよう日々感謝の気持ちを忘れず精進していきたく思います。
(教育人間科学部4年)

学生時代に留学を経験し視野を広げたいという思いで入学しましたが、今の経済状況ではとても困難でした。この奨学金に関わる方々からの恵みを受け、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。「受けるより与えるほうが幸いである」という聖書の言葉の如く、この奨学金を原点に人に仕え、人に与える人生を歩んでいきたいと思っています。
(地球社会共生学部1年)

資料請求
問い合わせ先
青山学院エバークリーン募金推進本部
フリーアクセス：0120-900-420 FAX：03-3409-3890
E-mail：bokin@aoyamagakuin.jp
<http://www.aoyamagakuin.jp/support/index.html>

≫インターネットからのご寄付も可能です。

青山学院 募金



アンケートご協力をお願い

入学広報部では、在学生の保証人の方々に本学の取り組みや在学生の活躍をお伝えするために本誌を制作しております。皆さまのご意見を今後の広報誌制作に生かすべく、アンケート調査を行うことといたしました。つきましては、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。6月30日(木)までにご回答いただいた方の中から抽選で30名に、青学オリジナルグッズをプレゼントいたします!(当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます)



大学校章入り修正テープ



アンケート回答はこちら

Club & Circle 31 陸上競技部 短距離ブロック

チーム一丸となってインカレ上位入賞を果たしたい。

短距離ブロックの練習拠点は相模原キャンパスのグラウンド。明るく楽しい雰囲気ながらも、自分に厳しくメリハリをつけながら日々の練習に励んでいます。トラックシーズンは3月下旬から11月上旬まで、自己ベストの更新を目指し毎週多くの大会や記録会に出場しています。2015年度は喜びも悔しさも味わったシーズンでした。

個人競技の側面が強い陸上競技ですが、5月の関東インカレや9月の日本インカレでは、青学陸上競技部として短距離、長距離ブロックがチーム一丸となり、上位入賞を目指しています。2016年度の目標は、男子は1部昇格、女子はリレーでの学生記録の更新。短距離ブロックは少数精鋭で、監督やコーチが、選手一人一人に熱心に指導してください。応援して下さる皆さんや監督・コーチへの感謝を常に心に留め、共に喜び、共に泣ける最高のチームメイトと、目標の達成に向けて努力を続けています。

(主務：国際政治経済学部 国際政治学科3年 寒竹 茜 記)



AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を年4回発行し、在学生の保証人の方々に送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内専用スタンドにて配布しています。

- バックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
- 確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きをしてください。**



発行元：青山学院大学 入学広報部
TEL：03-3409-0135